

はじめに

ボランティアセンター長 平野 方紹

2013 年度はボランティアセンター設立 10 周年という大きな区切りの年でした。

2003 年のセンター設立当時は、単独組織での大学ボランティアセンターはまだ少なく、大学におけるボランティア活動はどうあるべきかもまだ定かでない時期であったといえます。そんな中で、立教大学では、ポール・ラッシュ博士以来の奉仕活動をはじめとするボランティア活動の歴史と伝統を踏まえて、いち早くセンターを立ち上げ、大学としてボランティア活動支援を打ち出したことは、当時としては一時代先を行く英断だったと言えます。

その後のセンターの 10 年の歩みを振り返るなら、この設立時の見通しは時代を先取したものであり、ボランティア活動の意義は年々重要なものとなり、その活動の幅や対象・内容も大きく広がっており、その点からもセンター設立は時代と社会を見通したものだだったと先人の見識の高さを改めて感じるものです。

12 月 7 日の設立 10 周年記念シンポジウムには、多くの皆様にご参加いただき成功裏に終えることができ、ボランティアセンターのこの 10 年間の成果と今後の課題を皆様と共に確認することができました。改めて、この 10 年間を支えていただいた皆様に感謝申し上げ今後もご指導ご鞭撻をお願いする次第です。

さて、この記念すべき 2013 年度ですが、ボランティアセンターとしては大きな変化の年となりました。

まず、これまで池袋キャンパス 4 号館に張り付くように置かれたセンターが、5 号館 1 階にしっかりと「活動スペース」を確保でき、新座キャンパスでも学生が立ち寄りやすい環境が整備され、ボランティア活動支援の「拠点」にふさわしいものとなりました。また、これまでの活動についても、企画段階から検討と見直しを行い、様々な創意工夫を盛り込み、時代と社会の要請に応えたセンター事業の実施を目指した活動の実現に努めました。加えて、規程改正など組織のあり方も現実に合致したものと改善するなど、これからのセンターのあり方を見通した取り組みに努めて参りました。

こうした取り組みにより、一つひとつのセンター事業がより充実したものになっただけでなく、センターに来訪する学生数・相談件数は池袋・新座とも例年に倍増することができました。

勿論、一方で、反省すべき点や至らない点が多々あることも重々承知しており、こうした問題点をしっかり認識した上で、成果と課題を踏まえて今後とも事業を進めて参る所存です。

その意味でも、本報告書に目を通していただき、多くの皆様から 2013 年度のセンター事業について忌憚のないご意見をいただければと願っております。

最後になりますが、本センターの事業推進にご協力いただいた皆様に御礼申し上げまして巻頭のご挨拶とさせていただきます。